

日時 平成28年11月18日(金) 5校時  
 児童 5学年 男子4名 女子4名 計8名  
 6学年 男子3名 女子3名 計6名  
 指導者 内澤 薫

5 学年

- 1 単元名『説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう』  
 教材名 天気を予想する  
 [コラム]グラフや表を読む  
 (光村図書 5年)

2 身に付けさせたい力及び言語活動構想

【児童の実態】

- 事例と、筆者の考えを結びつけるなど文章の内容を的確に押さえて読むことができる子が多い。
- 読み取った内容をまとめたり、筆者の意図まで考えたりする力は十分ではない。

【身に付けさせたい力】

- 筆者の伝えたいことを叙述や資料から的確に押さえ、読む力(読むこと(1)ウ)
- ◎文章構成や図表・グラフ・写真等の活用の仕方に着目し、筆者の意図について話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする力(読むこと(1)オ)

【言語活動】

『筆者の説明の工夫について話し合おう!』

3 単元について

(1)言語活動の特徴と身に付けさせたい力との関係

教材文『天気を予想する』は、天気予報の仕組みや精度の向上、科学技術の進歩によっても予測しづらい現象もあることについて説明している。この教材文には、表・写真・図・グラフが効果的に用いられており、筆者の考えを捉えるとともに、文章の構成、各資料の効果的な使い方、数値を挙げた説明など、説明の仕方についても筆者の意図や工夫を学習できるように設定されている。次単元では『グラフや表を使い書こう』という教材が記されており、『天気を予想する』で学習した資料の効果的な活用の仕方を生かして、自分の意見を文章に書くという配列がなされている。

本単元で身に付けさせたい力は、『筆者の伝えたいことを叙述や資料から的確に押さえ、読む力』『文章構成や図表・グラフ・写真等の活用の仕方に着目し、筆者の意図について話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする力』の2つである。そこで、本単元の言語活動に『筆者の説明の工夫について話し合おう!』を位置付けた。この言語活動は、文章構成や資料の使い方について、筆者の意図やその効果を考えるものである。具体的資料と叙述とを結びつけ、その意図や効果を話し合うことで、理解を深められると考えた。よって、5学年の説明文の指導事項である『目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見な

6 学年

- 1 単元名「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう」  
 教材名 『鳥獣戯画』を読む  
 [コラム]絵画や写真を見るときは  
 (光村図書 6年)

2 身に付けさせたい力及び言語活動構想

【児童の実態】

- 意欲をもって学習に取り組み、文章の内容を的確に押さえて読むことができる子が多い。
- 読み取った内容に対して、自分の考えを述べたり、比較したりする力は十分ではない。

【身に付けさせたい力】

- ㊦筆者の考え方について叙述と絵を結びつけながら的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力(読むことウ)
- ◎筆者のものの見方について話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする力(読むこと(1)オ)

【言語活動】

『高畑さんになって「鳥獣戯画」の絵について解説文を書いてみよう!』

3 単元について

(1)言語活動の特徴と身に付けさせたい力との関係

教材文『『鳥獣戯画』を読む』は、「鳥獣人物戯画」甲巻に描かれている兎と蛙の相撲場面を中心に筆者の作品に対する解釈・評価が取り上げた対象や着目点がわかりやすく書かれている解説文的文章である。この教材文で、筆者は自分の見方を読者に伝えるための表現や構成の工夫も行っており、読み手が納得したり、自分の見方と比較したりできるように設定されている。次単元では『この絵、私はこうみる』という教材が記されており、『『鳥獣戯画』を読む』で学習した対象を明確にし、着目点と評価を整理して簡単な解説書を書くという配列がなされている。

本単元で身に付けさせたい力は、『筆者の考え方について叙述と絵を結びつけながら的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力』『筆者のものの見方について話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする力』の2つである。そこで、本単元の言語活動に『『鳥獣戯画』の絵について解説文を書いてみよう!』を位置付けた。この言語活動は、教材文を通して学んだ筆者のものの見方や表現方法を活用し、自分の考えをまとめるものである。対象を選び、着目点と評価を明確にして文章に表すことで、理解を深められると考えた。よって、6年生の説明文の指導事項である『目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をと

どとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること』(読むことイ)『本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること』(読むことオ)を実現するのに有効であると考え。

## (2)指導にあたって

本単元は、「文章構成や写真やグラフ・図表等、説明の仕方の工夫を見つけ、話し合いにより、考えを深めたり、広げたりする」ことを目的としている。

教材文は、天気を予想することについて小さな問いがあり答えがある、すると次の問いが生まれるということを三回繰り返す構成になっている全十段落の尾活型の文章である。また、文章以外の資料として表(p138)写真(p139, 143, 145)図(p140)やグラフ(p142)が用いられ、説明が展開されている。資料を用いて説明することで、読み手の納得を促すよう意図されている。

第一次では、天気についての既有知識や経験を交流させたい。次に、教材文を読み、感想を交流し、単元名、リード文から、本単元の学習課題「説明のしかたの工夫を見つけて話し合おう。」を設定し、単元の見通しを持たせたい。

第二次では、説明の仕方の工夫について確実に読み取らせていく。はじめに、学習シートを活用し、文章構成全体を大まかに捉えさせ、文章中の三つの問いと答えを捉えさせたい。また、資料(p138, 139, 140, 141, 143, 144)と結びつけて読みさせることで、それぞれの資料が、文章を裏付けていることにも気付かせたい。また、段落同士の関連に着目させ、要旨を捉えさせることにより、文章構成が読み手の思考の流れに沿いながら筆者の主張に近づけていく意図があることを捉えさせたい。次に、上記の資料と段落の叙述との関連や読み手に与える効果を学習シートに整理させたい。

第三次では、二次までに学習したことを生かし、要旨と各資料との関わりについて、考えさせることにより、筆者の工夫の意図を考えさせたい。そして、筆者の説明のしかたの工夫について、自分の考えをまとめさせ、お互いの感想を交流させたい。

### ①確かな「読む力」を育てるための指導の工夫

- ・授業のレディネスが整えられるよう、観点を示し音読に取り組ませる。
- ・学習シートや拡大文章の活用により、文章構成を視覚的に捉えられるようにする。
- ・写真・表・グラフ等と文章を対応させるために教材文にサイドラインを引かせたり語句や挿絵を囲ませたりする。
- ・説明の工夫(文章構成、資料の使い方)をまとめるために学習シート活用する。

### ②個への支援

- ・語彙が不足している児童については、読み取りを行うために必要な語句について事前に指導する。
- ・読解力の弱い児童については、着目すべき文や単語を具体的に示す。
- ・考えをまとめることを苦手とする児童については、観点や例文を示しながら、書かせるようにする。

らえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること』(読むことイ)『本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること』(読むことオ)を実現するのに有効であると考え。

## (2)指導にあたって

本単元は、「筆者のものの見方を捉え、自分の考えをまとめ、交流することにより考えを深めたり広げたりする」ことを目的としている。

教材文は、「鳥獣戯画」の解説や、絵の読み解きをし、日本文化の特色として絵を使って物語る「鳥獣戯画」の価値について結んでいる全九段落の尾活型の文章である。読み手を引きつける書き出しや文末表現の工夫もされており、筆者自信の解釈・評価を教科書に示された挿絵と結びつけながら読みさせることによって、筆者のものの見方とその対象を明確にして捉えさせることが比較的容易にできる構成となっている。

第一次では、教科書の挿絵を見て、感想を交流させたい。また、教材文との比較により自分たちや筆者の作品に対する見方について共通点や相違点があることにも着目させ、本単元の学習課題「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう。」を設定し、単元の見通しを持たせたい。

第二次では、筆者のものの見方を確実に読み取らせていく。はじめに、p138の挿絵と文章を対応させながら内容の読み取りをさせ、兎と蛙の相撲場面についての筆者の感じ方を捉えさせたい。次にp139, 140, 141の挿絵と文章を対応させながら、筆者が取り上げた対象、着目点、評価の観点に沿って作品の読み解きを捉えさせたい。心情表現や時間の連続性である。さらに、筆者が自分の見方を読者に伝えるための表現や構成に着目させ、効果を考えさせたい。書き出しや文末表現、絵の見せ方、説明の例などである。

第三次では、「鳥獣人物戯画」甲巻より対象を選ばせ、二百字程度の短い解説文を書かせたい。二次までに学習した筆者のものの見方や表現の工夫を活用しながら文章を書かせ、お互いの見方について交流させたい。

### ①確かな「読む力」を育てるための指導の工夫

- ・授業のレディネスが整えられるよう、観点を示し音読に取り組ませる。
- ・学習シートの活用により、文章構成を視覚的に捉えられるようにする。
- ・挿絵と文章を対応させるために教材文にサイドラインを引かせたり語句や挿絵を囲ませたりする。
- ・ものの見方を説明するための観点を整理するために学習シートを活用する。

### ②個への支援

- ・読解力の弱い児童については、着目すべき文や単語を具体的に示す。
- ・書くことを苦手とする児童については、書き出しを提示したり、取り上げる観点を具体的に示したりする。
- ・自己決定力が不足している児童については、選択肢を示し、決定を促すようにする。

4 単元の目標と評価規準

(単元の目標)

【関心・意欲・態度】

- ・題材，筆者の考え説明のしかたに興味をもち，文章を読もうとする。

【読むこと】

- ・筆者の説明の工夫やその根拠を示している部分に気付き，読み取ることができる。(1)ウ
- ・筆者の主張と根拠についての評価の観点をもち，筆者の主張に対する意見を表すことができる。(1)オ

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・語と語の関係に気を付けることで，文の意味が捉えやすくなる。(1)イ(オ)

(評価規準)

関心・意欲・態度	・題材，筆者の考え説明のしかたに興味をもち，文章を読もうとしている。
読む能力	・筆者の説明の工夫やその根拠を示している部分に気付き，読み取っている。 ・筆者の主張と根拠についての評価の観点をもち，筆者の主張に対する意見を表している。
言語についての知識・理解・技能	・語と語の関係に気を付けることで，文の意味が捉えやすくなることに気づいている。

5 単元の指導計画 (全6時間)

評価規準 【評価方法】	言語活動に関する留意点	主な学習活動	時次	次次	時次	次次	主な学習活動	言語活動に関する留意点	評価規準 【評価方法】
【関】 天気に関わる経験や知識を進んで話し，興味をもって教材文を読もうとしている。 [発言・ノート]	①筆者の意図や，提示された資料のよさに着目して教材文を読ませ，学習課題を確認させる。	①「説明のしかたの工夫を見つけ，話し合おう」という学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。	1	第一次	1	第一次	①「筆者のものの見方をとらえ，自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。	①教科書p137の絵を見て感じたことと，筆者の見方や感じ方を比べ，学習課題を確認させる。	【関】 教科書の絵に興味をもち，筆者の見方や感じ方と比べながら教材文を読み，感想を述べようとしている。 [発言・ノート]
【読】 三つの問いと答えを見つけ，それぞれの関連を読み取っている。 [ワークシート] 【言】 語と語のまとまりや接続のしかたについて理解している。 [ワークシート]	②表・写真・図等の資料や書き出し表現・文末表現に着目させ，三つの問いと答えを捉えさせる。 ③三つの問いと答えが順接的につながり，結論へ導いていることを捉えさせる。	②表・写真・図等の資料と結びつけながら文章中の三つの問いと答えの文の関連を考え，表に整理する。 ③整理した表をもとに，文章構成を理解し，要旨の概略をとらえる。	2 3	第二次	2 3	第二次	②教科書p144の視点に沿って文章と絵を対応させながら読む。 ③絵と絵巻物に対する筆者の評価に対し，自分の考えや感想をまとめる。	②対応する絵と文をサイドラインや囲みをさせながら読み取りをさせる。 ③文末表現に着目させ，事実と評価を区別しながら読ませる。	【読】 絵から取り上げた描写部分，着目点や筆者の評価について読み取っている。 [ワークシート] 【言】 文末表現に着目して読んでいる。 [ワークシート，ノート]
【読】 筆者の考えの根拠となる事実を表・写真・図・グラフと関連づけてまとめている。 [ワークシート，ノート]	④表やグラフが文章の裏付けとなり，図や写真が文章を補足していることを捉えさせる。	④教材文において筆者が表やグラフ・図等の資料を使う意図や，読者へ与える効果を考える。	4		4		④教材文における表現や構成の工夫点を整理する。	④書き出し，文末表現・絵の出し方等の観点をもとに工夫点を整理させる。	【読】 読み取った筆者の評価や表現のしかたについて自分の考えを表にまとめている。 [ワークシート，ノート]

4 単元の目標と評価規準

(単元の目標)

【関心・意欲・態度】

- ・絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち，文章を読もうとする。

【読むこと】

- ・筆者の考えやその根拠を読み取ることができる。(1)ウ
- ・筆者の意図と表現の工夫との関連が分かる。(1)ウ
- ・他者とのものの見方や感じ方の共通点，相違点を理解し，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(1)オ

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文末表現や助詞の使い方等語句に着目して読み，語句と語句の関係が分かる。(1)イ(オ)

(評価規準)

関心・意欲・態度	・絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち，文章を読もうとしている。
読む能力	・筆者の考えやその根拠を読み取っている。 ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えながら読んでいる。 ・他者とのものの見方や感じ方の共通点，相違点に気付き，自分の考えを広げたり深めたりしている。
言語についての知識・理解・技能	・文末表現や助詞の使い方等語句に着目して読み，語句と語句の関係を理解している。

5 単元の指導計画 (全6時間)

【読】筆者の考えの根拠となる事実と数値や写真の効果についてまとめている。 〔ワークシート、ノート〕	⑤数値を示すことで説明がより確かになることと、数値では裏付けられない内容があることを捉えさせる。	⑤教材文において筆者が数値や写真を使う意図や、読者へ与える効果を考える。	5			⑤筆者のものの見方や感じ方と自分の感じ方を比べる。	⑤共通点、相違点を視点にして筆者の見方・考え方と比較させる。	【読】教材文から読み取った筆者の見方や感じ方と自分の考えを比べている。 〔ノート〕
【読】説明文の効果的な文章構成や資料の使い方等について考え、交流し、考えを深めたり広げたりしている。 〔ノート・発言〕	⑥既習事項と要旨と結びつけながら筆者の工夫についての意図を捉えさせる。  ⑦共通点、相違点を視点にして工夫について感想を交流させるようにする。	⑥学習したことをふりかえり、筆者の説明の工夫について、要旨との結びつきについて話し合う。  ⑦説明のしかたの工夫について感想を書き、交流する。	6 (本時)	第三次	第三次	⑥『鳥獣戯画』から絵を選び、簡単な解説文を書く。  ⑦書いたものを読み合い、感想を伝え合う。	⑥筆者の書き方を参考にさせながら、観点を示し、二百字程度で解説文を書かせる。  ⑦共通点、相違点を視点にして共感的に解説文を読ませる。	【読】友達の解説文を読み、考えを広げたり深めたりしている。 〔ノート・発言〕

6 本時の学習

(1)本時の目標

○説明文の効果的な文章構成や資料の使い方等について、交流し、考えを広げたり深めたりすることができる。

(2)本時の評価規準

○説明文の効果的な文章構成や資料に使い方等について、交流し、考えを広げたり深めたりしている。

(3)展開

6 本時の学習

(1)本時の目標

○友達の解説文を読み、考えを広げたり深めたりすることができる。

(2)本時の評価規準

○友達の解説文を読み、考えを広げたり深めたりしている。

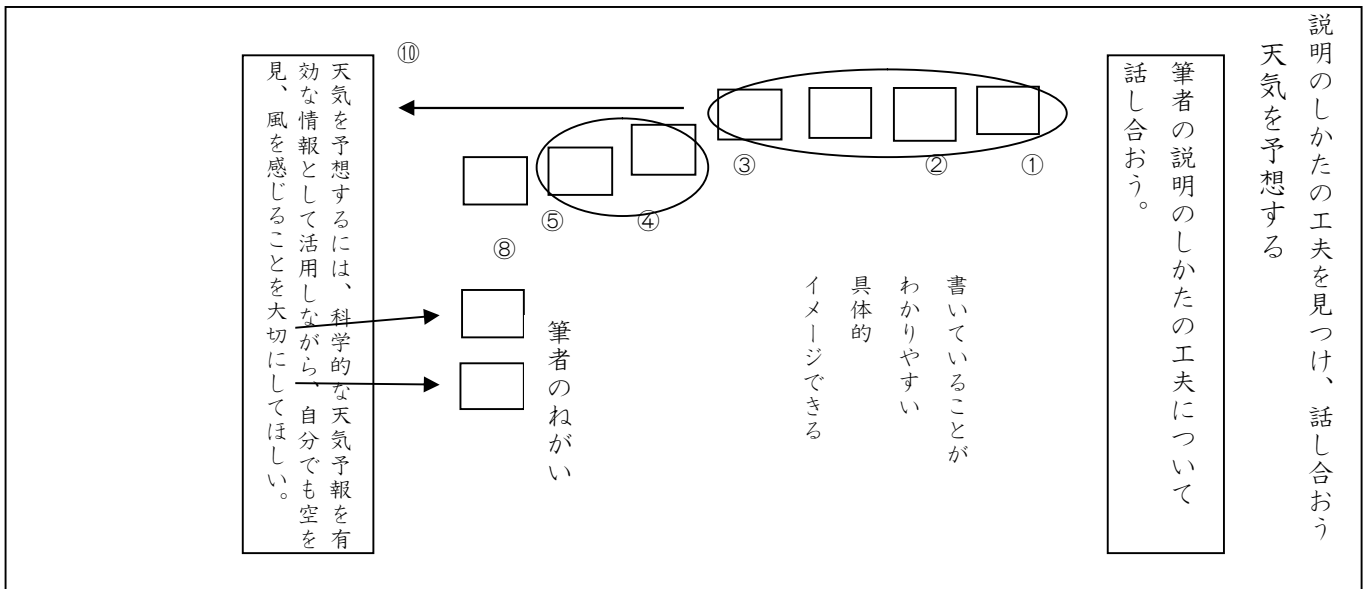
(3)展開

手立て (○) 及び留意点 (*) 評価規準 (◇)	活動内容	段階	活動内容	手立て (○) 及び留意点 (*) 評価規準 (◇)
○前時までの学習を想起し、課題を設定する。	1 本時の課題を確認する。  筆者の説明のしかたの工夫について話し合おう。  ～2分	導入	1 前時までの学習を想起し、本時の課題を確認する。  高島さんになって『鳥獣戯画』の解説文を書いてみよう。  ～5分	○学習計画をもとに本時の学習課題の確認をさせる。
○筆者の工夫について振り返りをさせる。 * 学習シートを活用しながら振り返りをさせる。  * 文章構成、写真、表、グラフ等資料が、十段落で述べている内容に説得力をもたせていることを捉えさせる。	2 筆者の工夫について振り返る。 ・前時までの工夫について学習シートで確認する。 5分  3 十段落(要旨)と写真、表、グラフ等の資料の結びつきについて話し合う。  ・十段落だけでは説得力がない。 ・前段落までの資料が十段落を補足している。	展開	2 高畑さんになったつもりで『鳥獣戯画』の絵について解説文を書く。  ・『鳥獣戯画』の絵から対象を取り上げ、着目点を選び、評価を書きまとめる。  15分	○観点を示し、教科書から題材を選ばせ、二百字程度の解説文を書かせる。  * 書くことが苦手な児童については、具体的な観点や取り上げるべき叙述について示す。  * 早く書ける子には他の対象についても書かせる。 ◇取り上げた絵について、着目点、自分の見方を明確にして解説文を書いている。 (ノート、学習シート)

<p>◇要旨と結びつけて資料の活用や文章構成について考えを發表している。 (發言, ワークシート)</p> <p>*自分の考えと比べながら聞き合うようにさせる。</p> <p>◇説明文における効果的な表現について, 自分の考えを發表し, 友達との共通・相違を判断している。 (發言, ノート)</p>	<p>・それぞれの資料や文章が十段落と結びつき, 説得力のある文章になっている。 20分</p> <p>4 説明のしかたの工夫について学習した感想を交流する。 10分</p>	<p>展 開</p>	<p>3 お互いに書いたものを發表し, 感想を交流し合う。 18分</p>	<p>○拡大投影機を活用して, 取り上げた絵と文をつなげて, 互いの見方について共通・相違を伝え合わせるようにする。</p> <p>*共感したことや, 新たな視点を中心に發表させる。</p> <p>◇解説文を読み, 自分の見方との共通・相違を判断している。 (發言, ノート)</p>
<p>*資料を用いた文章のよさや読み方についても確認し, 次の単元につなげるようにする。</p>	<p>5 学習をふり返り 8分 まとめる。</p> <p>・本時の学習より ・単元全体を通して</p>	<p>終 末</p>	<p>4 学習をふり返り 8分 まとめる。</p> <p>・本時の学習より ・単元全体を通して</p>	<p>*「絵を見る」ことと「人によって見方が異なるおもしろさ」をおさえ, 次の単元につなげるようにする。</p>

7 板書計画

5年



6年

筆者のものを見方をとらえ、自分の考えをまとめよう『鳥獣戯画』を読む

高畑さんになって『鳥獣戯画』の解説文を書いてみよう。

挿絵

対象・・・  
着目した点 表情・動き・線など  
どう見るか

解説文(二百字程度)  
左はしのかえるを見てみよう・・・  
・・・している。これは・・・  
きつと、・・・  
(高畑さんだったら・・・)